

登録コード	EKF25900	開講年度	2026			
授業科目	音楽科教材開発演習				担当教員	中島 卓郎 他
英文授業名	Seminar on Teaching Material Development (Music)				副担当	田島 達也・井田 勝大・齊藤 忠彦・桐原 礼
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限	履修学年
講義室			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 E A カリ，2 5 E A カリ，2 4 E A カリ					
	教育の専門職としての学識・技能				⇔	音楽教育における教育学、声楽、器楽、作曲・理論の各専門分野に関連させて、教材およびその開発について知見を得る。
	2 4 E A カリ					
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				⇔	初等・中等教育の目的に絡めながら、教材およびその開発に関する課題を，教科の背景としての学問の専門性に基づいて認識する。
(2)授業の概要	音楽教育における教育学、声楽、器楽、作曲・理論の各専門分野に関連させて、教材およびその開発についての認識を高める。 初等・中等教育の目的に絡めながら、教材およびその開発に関する課題を，教科の背景としての学問の専門性に基づいて学ぶ。					
(3)授業計画	第 1 回： 主として「比較聴取」をキーワードとして、表現及び鑑賞における指導内容に即した教材とその扱いについて討議する。（中島） 第 2 回： 「文化的側面」をキーワードとして、表現及び鑑賞における指導内容に即した教材とその扱いについて討議する。（中島） 第 3 回： 「カストラート」と呼ばれる歌手たちがかつて存在した。男性でありながら女性の声域を出す歌手である。彼らの声や演奏の特徴、存在した背景について講義し、カストラートのために書かれた楽曲を視聴する。（田島） 第 4 回： 最初に教科書に掲載されている鑑賞教材を概観し，教材の特徴をとらえる。続いて，教科書には掲載されていないが教材となりえる楽曲とは何か，また，その教材化を実際に行う。ネット配信されている楽曲についても検討する。 器楽領域で扱う教材・教具を概観し，楽曲・楽器演奏法・演奏形態等々、多様な側面から考察し、それらを活用した授業構成について検討する。（齊藤） 第 5 回： 器楽領域で扱う教材・教具を概観し，楽曲・楽器演奏法・演奏形態等々、多様な側面から考察し、それらを活用した授業構成について検討する。 小・中学校の音楽科教育における教材・教具について概観しながら，各自の問題意識に基づく教材・教具に対する課題設定を行う。（井田） 第 6 回： 小・中学校の音楽科教育における教材・教具について概観しながら，各自の問題意識に基づく教材・教具に対する課題設定を行う。（桐原） 第 7 回： 「比較聴取」あるいは「文化的側面」をキーワードとした指導内容を設定し、具体的な教材を調査・探究し、既存の教材や方法にとらわれず自らが教材を創造する視点を養う。（中島）					
(4)成績評価の方法	・各回の発表内容（40％），質疑応答・議論の内容（20％），およびレポート（40％）によって評価する。 ・評価割合は，若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可					
(5)履修上の注意	授業日程や開催場所を変更することがある。					
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は，各自担当教員と相談して決定すること。 なお，別表「担当教員のオフィスアワー」を参照すること。 中島:N409室にて随時。研究室電話番号:026-238-4137 メールアドレス:pf-naka@shinshu-u.ac.jp					
(7)成績評価の基準	「卓越している」：(1)研究課題，(2)理論的枠組み，(3)授業内容と専門性，(4)研究の意義，のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち3つ以上について発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「かなり上である」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち2つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「やや上にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。					

(7)成績評価の基準	「水準にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できている。
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】研究課題に関連した文献等を，図書館等で検索・収集し，研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり，吟味したりすること。 【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について，事後に各自で調べて再検討すること。
【教科書】	適宜紹介
【参考書】	適宜紹介